

# 匠を育み みらいを拓く

TODA MIRAI FOUNDATION GUIDEBOOK 2020

中屋敷左官工業株式会社（第4回 若手技能者に対する助成）

# “観る”プログラムが 新人を育て、技能を継承する

創業・昭和18年の中屋敷左官工業は、札幌を拠点に一般住宅から大規模ビルまで多様な左官工事を手掛けている。新人の採用・育成と社員の技能向上に関して業界の先駆けとなる挑戦を続ける同社の“虎の穴”にお伺いした。

中屋敷左官工業の本社がある札幌中心部から車で40分ほど走り、着いたのは日本海に面した石狩の街。ここに職人たちが日々技能の研鑽に努める同社の左官技能研修センターがある。笑顔で迎えてくれた中屋敷副社長は、業界で早くから新しい職人育成法を考案・実践し、また左官技術の継承と新たな可能性の追求にも取り組んでいる。「この研修センターは100mm厚の外断熱で、北海道の冬でも安心して技能研修が行えます。また大型ディスプレイやスマートフォンで自分の作業動作を確認できる設備なども完備しています」。(以下、「」内は中屋敷副社長)

## 技術と知識を与え、キャリアを示す

中屋敷社長が若手技能者の育成という大きな課題に取り組みはじめたのは今から8年前のこと。2011年のある日、ふと自社の職人の年齢に10年を足した一覧表をつくってみたところ、愕然としたと言う。「当時職人は34名おり、その平均年齢は51.5歳でしたが、もし新人が育たず10年経てば、2021年の平均年齢は61.5歳になります。これを見たとき私は会社の未来に強い危機感をもち、採用と育成の大改革に着手しました」。



1 2: 左官技能研修センター。2011年に即戦力育成プログラムをはじめた場所に、2017年に新築された。



3: 中屋敷副社長は総合建設会社で働いた後、25年前に先代の後を継いだ。4: 取材時は、入社希望の若者たちが塗り壁トレーニングと呼ばれる作業を通して左官仕事を体験していた。



Ishikari  
Sapporo



5: 左官技能検定を想定した実習台の前に、若手社員が練習を重ねる。6: 夜、仕事を終えた社員たちが車を走らせて研修センターに集まり、難易度の高い工事や新工法の習得に励む。新人教育だけでなく、若手からベテランまで幅広い世代が集うこうした研修でも、各分野で最高の職人を手本にした動画が最上のツールとなる。

それまでも新人採用は行っていたものの、右も左も分からない人が現場でできる仕事は掃除・片付け程度しかなく、入社しても直ぐに辞めるといった悪循環であった。「これでは駄目だと思ってつくったのが“即戦力育成プログラム”です。まず職長に現場で何が出来る人材が欲しいのかを聞き、それを新人が1カ月間で習得できるプログラムを考案しました。新人はこの間現場に出さず、現場において最低限必要な安全・材料・技術の知識、Pコン埋めに代表される現場ですぐに役立つ技術、そして塗り壁トレーニングによる養生を身に付けます」。このプログラムでは、作業を闇雲に身体で覚えさせるのではなく、先に理論を教え、その後練習することを繰り返す。これが今の若者にとって最も習熟度が高いと言う。この取り組みの結果、新人の離職者は急激に減り、8年後の現在、技能者社員45名、平均年齢38歳となった。同社のこの新人教育プログラムは、2014年からは札幌左官高等職業訓練校にも採用され、以降中屋敷社長は新入社員を同校に通わせるかたちを採っている。「この認定職業訓練校のカリキュラムとして研修することで、順調にいけば入社2年目には二級技能検定、5年目には一級技能検定への道が開けます。若者の目標や自信となるこうしたキャリアパスを示すことも重要です」。

## 最高の手本を観て学ぶ

このプログラムが大きな効果を発揮したひとつの要因として、当時先例のなかった動画の活用が挙げられる。

「きっかけは水泳のイアン・ソープ選手の体の動きを仔細に分析したTV番組を観たことでした」。現代のアスリートたちが最高の手本を分析して高いレベルに到達するように、どうすれば左官職人として理想的な動きや技能を身に付けられるのか。それにはこの世界の金メダリストの動きを学ぶことが良い。そう考えた中屋敷社長は現代最高の左官職人として名高い久住章氏に協力を依頼し、その動きを動画に収めて教科書とした。「ここで大事なのは、受講生たちが久住さんと自分たちの動きの違いを動画で比較して、自分たち自身で改善点を見つけることです。“見る”のではなく“観る”こと。これからの職人は“仕事は観て盗む”ということですね」。

## あらゆる左官技術を体系化する

「こうした取り組みを経て、私は動画が世代を超えて職人たちの技能を深化させる強力なツールだと感じるようになりました。そこで現在、これを中堅・ベテラン社員も含めた社員全員の更なる技能向上にも活用しています。洗い出し等、最近少なくなっている難易度の高い工事や新工法を習得するうえでもとても役立っています」。工事の簡略化が進み左官技能が劣化しつつある中で、そのすべてを体系化し高次元で継承する。左官の技が豊かな空間を創るという信念を胸に中屋敷社長の挑戦は続く。

中屋敷左官工業株式会社  
〒064-0805 札幌市中央区南5条西26-1-27  
http://www.nakayasiki.co.jp

一般社団法人 匠の学舎アカデミー 技心館 (第4回 若手技能者に対する助成)

# ものづくりで自活する力を培う 日本初の建築職人育成学校

建設業は幅広い職種のプロフェッショナルたちに支えられている。

香川県仲多度郡琴平町の金刀比羅宮の麓に、  
若者が多様な職種を体験し、  
その中で自分に合った仕事の知識と技術を習得できる  
日本初の“職人を育てる学舎”がある。  
「好きなことを身体で学ぶ」その現場に伺った。

Nakatado

(一社) 匠の学舎アカデミー 技心館 (以下、匠の学舎) を  
創立したのは、琴平町に隣接する善通寺市で長年建設会  
社を運営してきた白川勝理事長。匠の学舎の創立には建  
設業界における担い手不足という現状と、夢を描きにく  
い若者たちがものづくりの醍醐味を知り、その楽しさを  
未来の糧にして欲しいという白川理事長の想いがあった。

## 身体で勉強したい子供たちへの選択肢

白川理事長は、自身が建設会社を立ち上げた約30年前か  
ら行き場のない青少年を支える里親活動に取り組んでき  
た。中学を卒業後、児童養護施設を出て働かざるを得な  
くなった子供たちと一緒に現場で汗を流し、また自宅で  
生活を共にする中で、多くの子供たちが晴れやかな表情  
に変わっていく様子に接してきたと言う。

このように長年、建設業と並行して里親活動を続けてい  
く中で、社会や建設業の様相も大きく変わっていった。  
30年前は好景気で活気に満ちていたこの業界は、10年・  
20年と時が過ぎる中で、現場を支える職人たちの顔ぶれ  
は変わらず、各々が歳を重ねていく状況となった。  
「このままでは若者に教える職人すらいなくなってしまう  
」と大きな危機感を感じた白川理事長は会社を後進に

譲り、この匠の学舎を立ち上げたのである。

「いつの時代も得意なことは千差万別ですし、頭で勉強す  
ることが好きな子供もいれば、身体で勉強することが好  
きな子供もいます。今の時代、『皆が行くから』という理  
由で特に目標もなく高校・大学へと進学する若者が大勢  
います。しかし一度限りの人生で目標や理由もなくそう  
した生き方をすることはとても不幸なことです。だから  
私はこの時代に身体で学んだり、ものをつくることが好  
きな子供たちにその選択肢となる道をつくりたいと考え  
ました」。

これからの時代、技術をもった若者が稼げる時代が来る  
という信念の下、白川理事長の挑戦がはじまった。



1: 匠の学舎の白川勝理事長 (前列中央) と運営・講師の皆さん。



2: 琴平町の元病院を改修した校舎。壁面の絵画は地元の小学生によるもの。3: 取材時は3年生が卒業制作の作業中であった。4: 作業に必要な各種道具類も完備している。

## 自発的な欲求が学びに繋がる

こうして建設業界の人材育成と技能継承、そしてものづ  
くりによる社会人育成というふたつの目的を同時に実現  
するものとして、匠の学舎がつくられた。中卒以上の子  
供たちを受け入れるこの匠の学舎では通信制高校との提  
携により3年間で高卒資格を得ることができる。また多  
くの企業の協力の下、生徒たちが幅広い業種を体験して、  
その中から自分に合った仕事を選べるという点も大きな  
特徴である。具体的に、1年生は週に2日授業を受けて  
残りの3日を企業の現場に通うことで16業種を体験する。  
この1年間に生徒たちは希望の職種を絞っていく。そし  
て2・3年生は選択した業種で仕事のイロハを学び、卒業  
後は実習先へ就職することが想定されている。

「正直に申し上げて、ここに来る子供たちの多くは最初  
から建築職人になりたい、という強い思いをもって来るわ  
けではありません。そういう子供たちにまず建設業界の

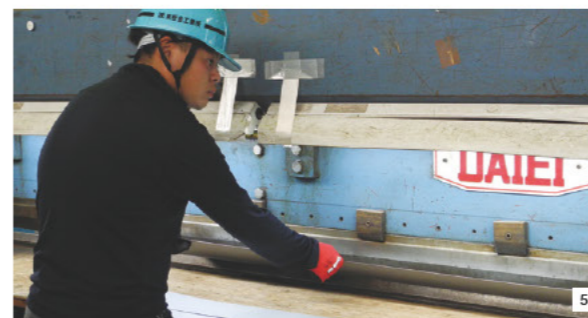
たくさんの業種を体験してもらうことが重要なのです。  
その中で自分に合った、自分が楽しいと思うものづくりに  
出会うと、彼らはそこから『これを自分のものにする  
には何が必要なのか』とどんどん変わっていきます」。  
自分が知りたいという欲求から覚えたことは必ず身につ  
き生涯の財産となる。これが白川理事長が考える学びの  
スタイルである。

現在3学年で計17名が在籍しているが、3年生は左官・大工・  
家具屋・<sup>とび</sup> 薦、2年生は板金・型枠・建設設備と多様な業種  
を選択している。生徒たちの希望職種が結果として別れた  
背景には「将来、俺たちが力を合わせて建物をつくろう！」  
という彼らの約束があるそうだ。開校から3年。今春、い  
よいよ最初の卒業生がここを巣立って行く予定である。

「多分泣きますね」と白川理事長は笑顔で語る。

一般社団法人 匠の学舎アカデミー 技心館

〒766-0002 香川県仲多度郡琴平町 45  
http://takumi-manabiya.com



5: 板金を選択した2年生の平井一将さん。6: 実習先である丸亀市の東板金工業所の皆さんと。仕事に対する真面目な姿勢がとても好印象だと言う。



7: 型枠を選択した2年生の北村日向さん。8: 実習先である丸亀市の相和興業の皆さんと。現場での挨拶も元気で良いね、と先輩は語る。

建設産業専門団体中部地区連合会（第4回若手技能者に対する助成）

## 多様な職種が集う高校生の体験フェアを開催

建設産業専門団体中部地区連合会では業界の担い手確保のため、高校（普通科・工業科・定時制・通信制）の生徒・先生と専門工事業者をマッチングさせる場として、職業体験ができる合同体験フェアを開催した。このフェアは高校生に建設業への入職を喚起させると共に、保護者にも実際の仕事内容を公開することで業界への理解を促進することも意図している。

会場には建設に関わる多様な職種が集い、それぞれの体験ブースと説明ブースが設けられた。4年目の本年は東海地方から約200人が参加し大盛況のうちに幕を閉じた。実際の作業の体験機会を提供することで就職活動の裾野が広がると考えている同会では、参加する生徒たちが多くのブースを体験できる工夫を凝らしている。



建設産業専門団体中部地区連合会  
〒474-0011 愛知県大府市横根町坊主山5-1  
<http://www.kensenren.or.jp>

西谷工業株式会社（第5回若手技能者に対する助成）

## 人材を採用・育成する積極的な取り組みを展開

東京都板橋区の左官工事業社・西谷工業では、若手職人確保のために工業高校での体験型実技演習を行なっている。これは搬入から片付けまで全て同社が行うもので、同時に定期的に学校訪問を重ねて情報交換を行い、インターンシップの受け入れなども積極的に実施している。

また入社後の育成と定着のために、新入社員を毎年4月の1カ月間、訓練校（東京左官技能者育成協会）に入れることで、左官の基礎技術習得をサポートしている。その後も各自の資質に合わせて専属指導員（現場を引退した熟練職人）が個別指導を行う同社独自の実技研修を行ったり、若手が率直な意見や情報を交換できる場を設けたりすることで、職人として成長できるシステムを構築している。



西谷工業株式会社  
〒175-0081 東京都板橋区新河岸2-9-26  
<http://nishitani-ind.com>

ハシモ株式会社（第5回若手技能者に対する助成）

## 建物外観を彩る、誇りある仕上げ技能者を育む取り組み

栃木県大田原市のタイル/石工事業社・ハシモでは、若者を採用・育成し、男女問わず専門技能者として長く働ける仕組みづくりを行なっている。その取り組みは複数の技術や材料に対応できる「多能工化の促進」、タイル工・石工の1級2級技能検定合格、そして技能五輪でのメダル獲得を支援する「資格及び技能五輪メダル獲得のためのサポート」、体系的なプロセスでしっかりと技術を習得する「キャリア形成のためのプログラム」など幅広い分野に及ぶ。

この中でも23歳以下の若者が課題に対する技能を競う「技能五輪」に関して、同社は2014年以降継続してタイル貼り部門でメダルを獲得しており、このうち3年は金メダルを獲得するという大きな成果を挙げている。



ハシモ株式会社  
〒324-0012 栃木県大田原市南金丸2000  
<http://www.hasimo.co.jp>

福島県左官業組合連合会（第6回若手技能者に対する助成）

## 子供たちが左官という仕事に触れる「光る泥だんご」づくり

福島県では毎年夏休みに入った第1週目の土・日曜日に、福島県職業能力開発協会主催による「ものづくりふれあいフェア」が開催されている。この会場で福島県左官業組合連合会は左官という仕事を理解してもらうための啓蒙活動として、「光る泥だんご」の体験ブースを開設している。光る泥だんごとは土をピカピカに輝いてだんごにする昔からの遊びである。このブースには毎年約1,400名ほどの小・中学生、及びその保護者たちが訪れ好評を得ている。また県内全域の小学校から光る泥だんごの講習依頼があり、昨年は5校・約400名に対して講習会を開催している。こうした活動は、だんごづくりにあった土探しから、膨大な数の泥だんごを途中まで製作するという左官職人たちの熱意ある活動に支えられている。



福島県左官業組合連合会  
〒963-8071 福島県郡山市富久山町久保田字山王館16-4  
<https://nissaren-seinenbu.jp/kalin-meibo/hukushima>



測量・墨出し

耐火被覆



塗装

### 多様な担い手の育成を目指して

日本の建設業界では、若者の入職者が減少し続け、特に近年では熟練者の引退により担い手不足が大きな課題となっている。千葉県にある型枠会社の社長は「他にも様々な選択肢がある中で、日本の若者はなかなかこの世界に入りません。しかし新興国に目を向けると日本の現場で働きたいという優秀な人材がたくさんいます。当社では18年前から中国人に来てもらっていますが、皆とても勤勉で誠実です」と話す。20数名の中国人が在籍するこの会社では、本国の家族と安心してコミュニケーションできるようインターネット完備の宿舎を用意するなど、受け入れ体制に力を入れている。「今後、日本の生産人口がますます減っていく中で私たちもある程度の部分は外国人の人の力が必要になります。そういう中で彼らがファミリーとして働けるような体制と魅力づくりが私たち企業に求められていると思います」。この会社のような先進的な取り組みが全国に広がるように、戸田みらい基金では外国人の受け入れに係る諸費用の一部を補助している。



型枠 from China

### 女性が輝く建設業を目指して

女性が安心して働き続けることができる支援事業に大変感謝しています。現場では若手の女性技能者も増えていますが、いずれはそうした人たちにバトンタッチできるよう、継続して建設業界で力を発揮したいと思います。(3歳のお子さんを育てるKさん/造園工事)

Voice 01

私自身、どうすれば女性がこの建設業界で継続して働き続けることができるのか考えることが多いのですが、このように助成金というかたちで支援をしていただけることはとても助かりますし、また励みにもなります!(5歳のお子さんを育てるWさん/組積工事)

Voice 02

1つの会社に留まらず、建設業全体の未来を想い設立された財団に認めていただきとても嬉しく励みになります。自分自身の仕事ぶりで周囲に必要な人材だと認めてもらえるよう頑張ります。

Voice 03

(5歳のお子さんを育てるYさん/造園工事)



内装



鳶 from Vietnam



揚重 from Vietnam

鉄筋 from Indonesia



型枠 from Vietnam



# 真夏のものづくりバトル！ 大阪城コンクリートカヌー競技大会

近畿高等学校土木教育研究会／東播工業高校／和歌山工業高校（第1回教育振興に係る助成）

■：“競漕の部”では、学生たちが設計・製作したコンクリートカヌーを漕ぎ、大阪城の東外堀に設けられた150mのブイ間を往復するタイムが競われた。同部門では香川県立坂井工業高等学校が優勝を飾り、また全部門を含めて最も優れたチームを選ぶ“総合の部”では香川県立多度津高等学校が4連覇を果たした。

■①：チーム毎に多彩なカラーやデザインが施されたカヌー。“デザインの部”は、関係者や大阪城公園を訪れた人々が投票するかたちで行われた。②：開会式の様子。近畿・中国・四国地方から多くの学生がこの大会に集った。③：“製作の部”では審査員にそれぞれの工夫をアピールするプレゼン力も求められた。④：構造も各異なり、細部にまで工夫と苦心の跡が伺えた。

工業高校や高等専門学校などで建設を学ぶ学生たちが、各校ごとにコンクリートでカヌーを設計・製作し、工夫を凝らしたアイデアと自慢の艇のスピードを競うコンクリートカヌー競技大会。20回目の記念大会となった今年は、天下の名城・大阪城を舞台に熱い戦いが繰り広げられた。

近畿高等学校土木教育研究会では、教育活動の一環として、毎年8月にコンクリートカヌー競技大会を開催してきた。20回目の記念大会となった今年は大坂城の東外堀を舞台に19校21チームが参加し、8月24・25日の両日開催された。今大会において当基金では主催の近畿高等学校土木教育研究会と、参加校のうち兵庫県立東播工業高等学校・和歌山県立和歌山工業高等学校の2校に助成を行っている。

## 多彩な工夫とデザイン

暑い真夏の日差しの下、2日間に渡って開催された本大会。各チームはセメント系材料を使って、学生たちが工夫を凝らして設計・製作したふたり乗りのオリジナルカヌーをそれぞれ

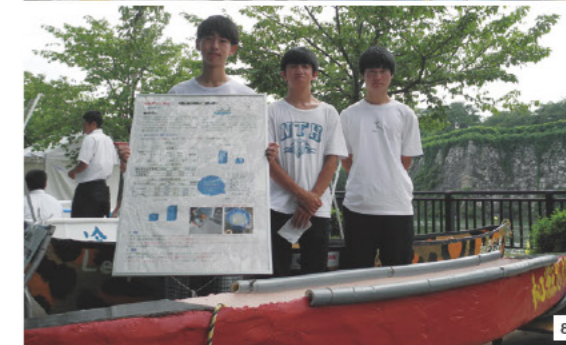
れ会場にもち込んだ。初日は各チームがカヌーの特徴や設計上のアイデアについてアピールするポスターセッションが行われ、この内容と資料を元に各艇を評価する“製作の部”が行われた。また外堀に隣接する緑地に全チームのカヌーが展示され、関係者はもちろん、公園を訪れた一般の人々も参加して、各々が気に入ったカヌーに投票する“デザインの部”も行われた。前記の東播工業高校のカヌー「ジーニー」(写真7)は、フレームを引き継いできた昨年までのモデルを一新し、自分たちだけの艇として1から作り上げたもの。直線でのスピードを重視して、シンプルで縦方向に長いデザインを採用した。また和歌山工業高校のカヌーは強度向上のためにコンクリートに粘り気を出すことと、料理排水の有効利用を目的とし

て、ここ数年“こんにやく粉”“うどんのゆで汁”“麺のゆで汁”を材料に用いてきた。今年の「米米だいすき丸」(写真8)は、そのコンセプトを踏襲して、“米のとぎ汁”を材料に使用した。

## ものづくりの醍醐味を経験する

2日目は全艇が往復300mのコースでタイムを競う“競漕の部”が行われた。大阪城という場所柄、例年以上のギャラリーで賑わった本大会は大盛況のうちに幕を閉じた。20年に渡りこの大会を見守ってきた関係者はこう話す。「かつては浮くかどうか、という艇も多くありましたが、今では各校が独自の工夫を積み重ねて大きく進化しています」。構造物に不可欠なコンクリートを材料として、仲間とひとつの成果をつくり上げるこの挑戦が、ものづくりに携わるプロとして、将来大きく役立つだろう。

全国高等学校土木教育研究会  
(コンクリートカヌー競技大会へのリンク有り)  
<http://nch2015.jp>



⑦：東播工業高校のメンバー。チームを見守った先生は「メンバーが初めてコンクリートに接し、一連の工程を経験できたことが良かった」と話す。⑧：和歌山工業高校のメンバー（一部）。コンセプトであった米のとぎ汁の配合を担った班と型枠製作班に分かれ、計15人で作り上げた。

北海道北見工業高等学校（第1回教育振興に係る助成）

## 豊かな自然を活かした、ユニバーサルツーリズムを担う人材の育成

北海道北見工業高等学校では、校並木公園の緑化事業に必要な施工・造成技術に関する研究を通して、人や環境に配慮した実践的で安全なものづくり教育を展開している。この活動は、地域の企業や大学等と連携して推進しており、整備によって出る副産物の有効活用方法も検討している。一連の活動を通して、生徒が建設・観光産業等に主体的・

総合的に関わることができる知識や技能を修得し、これを有機的・総合的に結合できる地域社会の担い手へと育成することを目指している。研究開発の成果は、地域の「町おこし」や「観光資源」として活用する。現在、学校と地域の企業が協力して、この緑化事業の実現を推進している。



■1：公園を整備するために実施した山林部の測量。■2：小川の下部に池を造るために実施した付け替え工事。■3：山の中腹部は街を見下ろせる絶景ポイント。この場所を公園整備計画の目玉となる「夜景の見える展望スポット」とすべく整備が進められている。写真は学校で製作したコンクリートを用いた土台設置の様子。

東京都立田無工業高等学校（第1回教育振興に係る助成）

## 土木・造園の構築学習を兼ねた、実習地環境の整備

東京都立田無工業高等学校では、夏休み期間中、実習地に雑草が生い茂ることによる近隣からのクレームに頭を悩ませていた。またそれ以外に重機等による実習時の騒音や土埃に対するクレームも寄せられていた。そこで3年生の課題研究を兼ねて、こうした問題を防ぐ整備を行った。具体的には実習後、大量に出る廃材のコンクリートガラを

使用して石垣を築き、実習場所と外部を分断した。石垣の内側から外側へ土を送って地盤の高低差をつくることで、土埃の解消と音の伝達軽減を実現した。石垣の外側の庭園部分にはインターロッキングやレンガを敷均し、歩行地と実習地の区分けを行った。これは雑草除去の一助になり、また近隣環境の向上にもなった。



■1：夏休み中に材料を揃え、9月から作業を本格的に開始した。まず実習地の石垣を築く部分のレベルを確認し、根切り、地盤強化（ガラや砕石の敷き詰め）、転圧などを行った。■2：次に型枠を組み、仕上がり高に墨を出し、コンクリートを打設。■3：異形鉄筋をベース上部に敷いて結束し、石垣となるブロックを積んでいく。

兵庫県立篠山産業高等学校（第1回教育振興に係る助成）

## ものづくりの醍醐味を体感する<sup>あずまや</sup>四阿整備プロジェクト

兵庫県立篠山産業高等学校では、生徒が学んだ専門知識や技術を活かして、ものづくりの魅力や楽しさを体験するための「四阿整備」が行われた。これは1年間の実習や課題研究を通して、同校敷地内に四阿を整備するもので、生徒・職員は（一社）兵庫県建設業協会篠山支部から施工方法や技術指導を受け、実施された。

この四阿は将来的に同校の農と食科（農業）で生産した農作物の販売場として利用するほか、課題研究発表会や学習成果発表会でも披露される。ものづくりは技術や知識だけではなく、使う人のことを考えることが重要である。生徒たちが自分で手掛けたものが継続的に使用されることにより、建設業のやりがいを感じる機会となることを意図した。



■1：四阿は同校の農場施設内に設置される。最初に建設業協会の指導を受けながら測量、掘削、丁張りが設置された。■2：基礎コンクリート施工のための型枠設置作業。■3：四阿の柱・梁の加工状況。柱・梁は接合のためのホゾ穴を開ける加工も行った。

山口県立柳井商工高等学校（第1回教育振興に係る助成）

## 災害時の避難生活を支えるロケットストーブの設計と製作

現在、多くの自治体で災害時の避難場所が確保されているものの、ライフラインが分断された場合は、復旧まで避難した人々自身でもちこたえる必要がある。山口県立柳井商工高等学校では、近年の災害時避難状況の分析から、そのための設備が十分ではないと考え、熱源の確保に役立つロケットストーブの製作を行った。

具体的には同校の建築コースが耐火性能・断熱性能を向上させた軽量コンクリートを用いて、日常時はベンチとして使用し、緊急時にはロケットストーブとして活用できるベンチ型ロケットストーブを設計・製作した。また避難場所への設置も行った。避難場所への普及が進むように、一品物を生産するのではなく、量産化や製品化が考慮された。



■1：設計を行い、その図面を確認しながら製作した型枠を組み立てる。■2：軽量コンクリートの最適な配合割合を算出し、それに基づいたコンクリートを練り、型枠へ打設。■3：完成したロケットストーブ。

# 建設業の未来を担う人材育成を支援する 戸田みらい基金の取り組み

戸田みらい基金は、安全で安心な建物や社会インフラ等の整備及び保全に対して、建設技能者をはじめとする「担い手の拡大」と、「技術・技能の向上」という観点から貢献していくことを目的に設立されました。現在、以下の4つの助成活動を展開しています。



戸田みらい基金の審査委員会の様子。

対象：専門工事事業・団体

## 若手技能者の採用や育成 に資する活動に対する助成

若手技能者の採用・育成・資格取得に効果的かつ先駆性のある活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、専門工事事業等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第1回	2017年2月	6件 (3社+3団体)
第2回	2017年5月	5件 (4社+1団体)
第3回	2018年2月	5件 (4社+1団体)
第4回	2018年5月	10件 (3社+7団体)
第5回	2019年2月	7件 (5社+2団体)
第6回	2019年5月	7件 (6社+1団体)



対象：個人

## 女性技能者の 継続就労に対する助成

女性技能者が子育てをしながら安心して働くことができるよう保育費用等の助成を行い、継続就労の促進を目指しています。

第1回	2017年6月	13名 (7職種)
第2回	2018年5月	15名 (継続11名/7職種)
第3回	2019年5月	9名 (継続9名/5職種)



対象：専門工事事業・個人

## 外国人技能実習生の 受入れに係る助成

専門工事事業に対して、外国人技能実習生の受入れに係る諸費用の一部を補助することにより、実習生の技能修習の促進を目指しています。

第1回	2018年2月	11社 21名
第2回	2019年2月	9社 18名



対象：教育関連団体・高校・工業高校等

## 建設に関する 教育振興に係る助成

建設に関する教育振興活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、教育関連団体・高校・工業高校等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第1回	2019年5月	助成A：3団体 助成B：18校
-----	---------	--------------------

助成A：教育関連団体等の取り組み/助成B：高校・工業高校等の取り組み





## 戸田みらい基金の概要

所在地	東京都中央区八丁堀2丁目8番5号 (戸田建設株式会社内)
理事長	今井雅則
事業内容	1. 若手技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業 2. 女性技能者の継続就労に係る助成事業 3. 外国人技能実習生の受入れに係る助成事業 4. 建設に関する教育振興に係る助成事業 5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

設立年月日 2016年10月3日  
設立者 戸田建設株式会社

お問い合わせ 一般財団法人 戸田みらい基金 事務局  
TEL 03-3564-2711  
E-mail [info@toda-mirai.or.jp](mailto:info@toda-mirai.or.jp)  
HP <http://toda-mirai.or.jp>



[発行日] 2020年1月1日  
[発行] 一般財団法人 戸田みらい基金

©2020 TODA MIRAI FOUNDATION  
本書の記事、写真、図版などの無断転載および複製を禁じます。